

様式第2号

## 行政視察報告書（調査研究費）

平成30年8月9日

長久手市議会議長  
川合 保生 様

長久手市議会議員 なかじま 和代 ㊞

政務活動費を充てることができる経費の範囲の運用指針により次のとおり届け出ます。

年 月 日	平成30年7月11日（水）の 1日間
視 察 先	泉大津市役所 （行程表は別表のとおり）
成 果	（報告書は別紙のとおり）
経 費	金 10,340 円（政務活動費対象経費） 金 10,340 円（全体経費） （明細は別添のとおり）
提 出 資 料	○視察先資料 ○領収書の写し

※行政視察を実施した後は議長に1カ月以内に提出するものとする。ただし、1カ月以内が翌年度の4月20日を経過する場合は20日までとする。

# 泉大津市視察行程表

平成30年8月9日  
長久手市議会議員 なかじま和代

7月11日(水) 時間	場所	内容	金額
8:13	はなみずき通駅		
		東部丘陵線・藤が丘行	170円
8:16	藤が丘駅		
		徒歩移動	
8:24	藤が丘駅		
		名古屋市営地下鉄東山線・高畑行	300円
8:53	名古屋駅		
		徒歩移動	
9:00	近鉄名古屋駅		
		近鉄名古屋線特急・大阪難波行	4,260円
11:09	大阪難波駅		
		徒歩移動	
11:23	難波駅		
		南海線空港急行・関西空港行	440円
11:43	泉大津駅	昼食	
13:00 ～ 15:00	泉大津市役所視察	・家庭教育支援における訪問型 アウトリーチ支援事業について ・「足育」事業への取り組みについて  ※16時～南出賢一市長表敬訪問	
		徒歩移動	
17:20	泉大津駅		
		南海線空港急行・難波行	440円
17:44	難波駅		
		徒歩移動	
18:00	大阪難波駅		
		近鉄難波線特急・近鉄名古屋行	4,260円
20:08	近鉄名古屋駅		
		徒歩移動	
20:18	名古屋駅		
		名古屋市営地下鉄東山線・藤が丘行	300円
20:46	藤が丘駅		
		徒歩移動	
20:51	藤が丘駅		
		東部丘陵線・八草行	170円
20:53	はなみずき通駅		



# 泉大津市役所行政視察報告

長久手市議会議員 なかじま 和代

平成 30 年 7 月 11 日 (水)

## 視察項目

- ・家庭教育支援における訪問型アウトリーチ支援事業について
- ・「足育」事業への取り組みについて
- ・南出賢一市長表敬訪問

泉大津市は、人口は約 7 万 5,000 人、大阪府泉北地域に位置する海沿いの街です。市内全域がほぼ平坦で、市街化区域です。大阪都心部や関西国際空港まで電車で 20 分、高速道路の出入口は 2 か所あり、北九州へ向かうフェリーが就航する関西のへそとも言える場所です。

市名は和泉国の国府の外港であったことに由来します。江戸時代、和泉木綿の集散地だったことから、明治以降毛布の製造が始まり、現在も国産毛布の 9 割以上を生産する日本一の毛布のまちです。

市の木は「くすのき」、市の花は長久手市と同じ「さつき」です。



視察メンバーと南出賢一市長(左から3番目)

## 南出賢一市長

南出賢一(みなみでけんいち)市長は、平成 29 年 1 月に泉大津市市長として就任され「将来に希望がもてる、元気な泉大津をつくる」ため『一人の百歩ではなく、百人の一步』約 7 万 5,000 人の市民総出で、元気な泉大津を作っていきたくと市政運営に取り組んでいます。昭和 54 年生まれ 38 歳です。

# 家庭教育支援における訪問型 アウトリーチ支援事業

泉大津市には小学校 8 校、中学校 3 校がありますが、昔のように三世代同居の家庭も減少したことによる子育てやしつけに悩みや不安を抱える保護者の増加等から学校職員でない第三者による訪問型家庭教育支援事業を平成 17 年度から続けています。

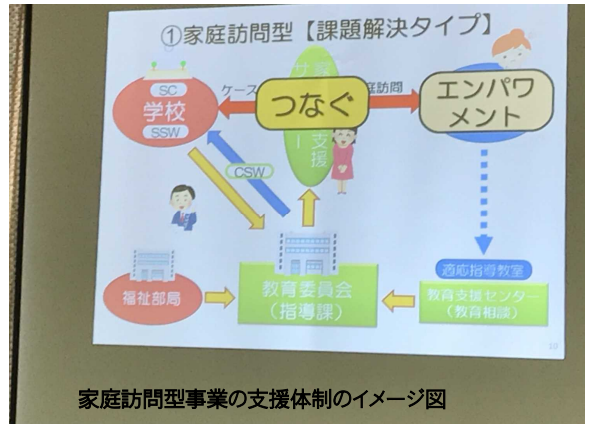
支援対象は、不登校、非行、ネグレクト、育児不安等の具体的な課題を抱える家庭です。

教育委員会に家庭教育支援チームがあり、指導課が「訪問型アウトリーチ支援チーム」を所管しています。チームのメンバーは9名、①全員カウンセラー資格がある地域人材で有償ボランティア、②保護者にとっては教員・教育委員会等ではない第三者、③子育て経験者、④守秘義務が課されている、⑤必要に応じて親の仕事前、昼休み、夜間など会える時間に訪問できる等の特徴があります。

家庭訪問型では、学校等からの派遣依頼を教育委員会指導課で受け、派遣の検討・決定を行います。派遣要請を受けたチームがサポーター会議等で情報を共有し個別のプランニングを行い家庭訪問・学校との連携をすすめます。

親である保護者が心身ともに元気になることが、子どものために一番大切なことで、直接的な問題解決より遠回りに思えるような会話の積み重ねが成果となっています。

平成 29 年度からは早期支援のために支援対象を広げ、学校配置型の取り組みも始めています。



## 訪問型支援に向けた5箇条

- (1)お土産を持って訪問しよう…保護者が喜ぶ「子どもが成長する姿」
- (2)目的は「保護者のエンパワメント」
- (3)信頼関係で「人と人をつなぐ」
- (4)助けすぎ”に注意！…保護者の自立を促し、依存にならないように
- (5)いつの間にかいなくなる

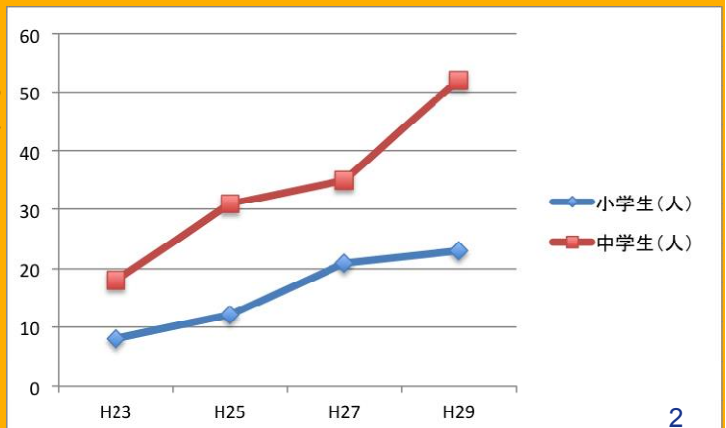
エンパワメント:本人が本来持っている能力が発揮できるように、自分自身の生活や環境をコントロールできるようにしていくこと

(所感)チームのメンバーが保護者から負のエネルギーを受ける場合に合気道的にかわす能力(カウンセラー資格者)があり、保護者の抱えるみじめな劣等感も支援が終わる頃には解決し、子どもとの関わり、子どもの問題も解決して行くと聞きました。保護者の孤立が社会問題の根っ子の部分にあり、人と話すことの大切さを感じました。

## 長久手市へ活かす

市内小学校、中学校の長期欠席は増加の傾向にあります。平成 29 年の長期欠席者は小学生 23 人(0.57%)、中学生 52 人(3.16%)と中学生の方が深刻です。学校では、スクールカウンセラー(小中)、心の教育相談員(中)、スクールソーシャルワーカー(中)が生徒、保護者の相談に対応していますが、訪問し保護者の問題解決をはかるような積極的な支援が必要ではないかと考えました。

【長期欠席(不登校)児童生徒数の推移】



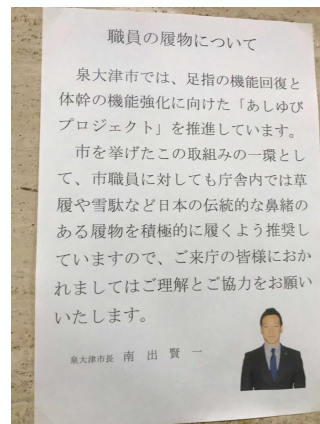
## 「足育」事業への取り組み

平成30年度1,500万円の当初予算で「あしゆびプロジェクト」が始動しました。あしゆびを鍛えて健康になろうという目的の事業です。

現代は子どもの約8割が足部に何らかの異常を抱えていると言われ、高齢者の要介護の原因となる「転倒」は足指が浮いていることに本質的な原因があると言われています。また、幼児期から足指を鍛え体感を安定させ、正しい姿勢を身につけることは、集中力の持続・学力運動能力の向上・生涯寝たきりにならず健康な体を維持するための土台作りにつながると考え、あしゆび運動に取り組んでいます。

実際の取り組みは、地域包括ケアシステムの中では、健康寿命の延伸や高齢者の身体機能の維持・向上・回復を目的に「あしゆびプロジェクト」を実施し高齢者の介護予防や自立支援・重度化防止に取り組んでいます。あしゆび体操、ファンクショナルマットを活用した運動で体感を鍛えます。幼稚園・保育所・認定こども園のこども達に対しては、あしゆび体操、あしゆびじゃんけん、おずみんな体幹体操、ファンクショナルマットを活用した運動あしゆびの機能や体幹バランス機能や正しい動作の向上を目指した体操を遊びの中で身につくように「あしゆびプロジェクト」を実施しモデル園については評価のため運動が始まる前と半年間の実施後で足の機能測定を行います。

市の事業として健康寿命延伸を掲げ、研究プロジェクトを官民連携のもとで進め全国へ発信するものです。



### 職員の履物について(庁舎内掲示)

泉大津市では、足指の機能回復と体幹の機能強化に向けた「あしゆびプロジェクト」を推進しています。市が挙げたこの取組みの一環として、市職員に対しても庁舎内では草履や雪駄など日本の伝統的な鼻緒のある履物を積極的に履くよう推奨していますので、ご来庁の皆様におかれましてはご理解とご協力をお願いいたします。  
泉大津市長 南出賢一



市庁舎内で鼻緒のある履物を履く職員

## 長久手市へ活かす



ケンコーミサトっ子

高齢者の足から土踏まずが無くなると転倒しやすくなるということをはじめ聞き、1日1分ほどのあしゆび体操で健康が維持できるのならば、ぜひ広めたいと思いました。体操は、新しい器具も必要なく、靴下を脱がずその場でできる手軽なものです。長久手市の公立保育園ではケンコーミサトっ子を推奨してきました。鼻緒をつかんで歩くので足の指の力がつき、土踏まずが形成されます。子ども時代にしっかり土踏まずができる環境づくりも情報を共有し進めたいと考えました。

## 南出賢一市長表敬訪問

表敬訪問をさせていただき、市長が立ち上げたあしゆびプロジェクトについて「大人も子どもも約8割の人が足に異常を抱えていて、その要因の一つが和式便所の減少、毎日5分10分筋トレを自然と行っていた。正しい姿勢を保てないとだんだん下を向いて、集中力・学力に影響が出てくる。いずれ身体中で異常が起きる。足を育て、5歳6歳ごろまでに正しいポジションを覚えられないと運動能力・学力・健康につながる。だから、泉大津の幼児教育・小学校教育に取り入れていきたい。」と言った熱い思いをお話いただきました。

その日に南出市長が履いていた草鞋は、泉大津の特産品、毛布の端布で編んだものでした。編んでいるのは、泉大津の方だそうです。編める人材を増やし、サロンのように井戸端会議をしながら楽しく作って、商品になればいいと楽しそうにお話でした。端布は産業廃棄物としてお金を出して捨てていたものを利用しているそうです。三方良しの泉大津への愛が溢れるアイデアだと感じました。

「高架下の活用にドローンの教習場を作る。」「右脳教育を理化学研究所と共同研究し、子どもたちの中で早い子は1分間に1万6千文字の本を読める。」「親日アジアのIQ60以上の学生を集め教育機関を作る。」「市民病院と連携し酵素風呂を整備する。」等すでに始まり動き出している事業から中長期的な目標まで刺激的でした。

参考に、職員募集のメッセージ(右)で南出市長のワクワク楽しく市政運営に取り組んでいらっしゃる様子が見えていただけると幸いです。



ハードルが  
下がりました。

公務員試験対策 不要!!

ほぼ

2018 泉大津市職員採用試験

申込期間: 8月20日(月)~9月4日(火)  
詳しくは、ホームページをご覧ください。

問合せ先: 泉大津市役所人事課 ☎0725・33・1131

泉大津市職員採用試験ポスター  
(平成31年4月採用)



泉大津市から泉大津市職員採用試験を受験するみなさんへのメッセージ



ナワシロイチゴ(長久手)

## 長久手市へ活かす

長久手市は住民の平均年齢が日本一若いまちで、名古屋市に隣接した緑も多い魅力あるまちです。イオン、イケアの出店に続き、2022年にはモリコロパークにジブリパークが開かれる計画もありますが、市の施策にワクワク心が踊るようなものが無く残念です。あるものを活かし、無いものが生まれるような環境づくりとともに、子どもを大切に育てる施策、若さを活かす施策がもっと必要だと考えました。